

～市民と農業者をつなぐ  
武蔵野市農業委員会だより～

# むさし



創刊号 平成 25 年 10 月  
編集・発行 武蔵野市農業委員会  
〒180-8777 武蔵野市緑町 2-2-28  
Tel 0422-60-1833 (直通)  
Fax 0422-51-9193 (直通)

農業委員会だより発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

本市農業委員会は、市と協力し、都市農業の発展・充実のために認定農業者や援農ボランティアの育成事業、市民農園の栽培コンクールへの協力、市民参加型の農の風景写真コンクール、夏野菜の立毛品評会と試食会、秋の青空市と合わせた農産物品評会の開催など様々な農業振興事業に取り組んでまいりました。また、市内農地の多くは、大規模災害発生時の避難先として行政と協力関係にあります。学校給食については、生産者と給食関係者が定期的に協議を重ね、食材の安全・安心を図っています。野菜生産者は、安全・安心な野菜生産のために常に各野菜の播種日から肥料や農薬の種類や量等を生産履歴に記入・保存し、出荷しています。



この農業委員会だよりが、都市化が進む武蔵野市の中で営まれている「農業」をより多くの皆様に知っていただくための情報発信の一助となりますことを願ってやみません。

武蔵野市農業委員会会長 井口良美

## 武蔵野市の小麦スローフード

武蔵野市では、昔から小麦の栽培が盛んでした。先人の伝統を次世代に継承していくために、現在市内小学校の児童が小麦の栽培体験を行っています。



畑にかかとで足跡を付けこれを目印に  
種蒔き (11月)



雪の日もあり



麦踏み (2月)



地粉うどんの給食いただきま～す  
(9～11月)



収穫と脱穀 (6月)



青麦の頃 (4月)

## 農業委員集合写真



後列左より 中村、田中（武）、土屋（正）、榎本（英）、後藤、櫻井、高橋、舟木各委員

前列左より 田辺、土屋（美）、井口会長、榎本会長職務代理、蔵野、田中（恒）各委員

平成 25 年度は写真の委員で活動をしています。どうぞ宜しくお願いいたします。

農業委員会は、農地パトロールを9月から10月にかけて生産緑地や相続税納税猶予特例適用農地他の現地調査を実施しています。納税猶予継続のためには、税務署に農業委員会の証明書を3年ごとに提出する必要があり、提出期限も厳しく定められています。また、農業委員会では、「地産地消」を目的とした安全・安心で美味しい農産物を提供するためイベント等への協力・



定例会議状況

連携をして武蔵野市の農業の発展を目指しています。

農地パトロール  
(9月～10月)



## 武蔵野市農産物品評会

東京都農業振興事務所の審査員が出品農産物の優劣を審査し、農産物は翌日販売します。（良品が安い）また、市民の方の農産物の展示もしています。（11月）



審査



販売



市民農園展示コーナー

年間の農業振興事業の一端をイベントカレンダー（次ページ）の中から、一部ご紹介します。どうぞ皆様の参加をお待ちしています。



東京ウド発祥地の誇りをかけて。  
販売も行います。（2月）



市内農家見学会（11月）



フレッシュサラダ作戦  
新鮮な朝どり野菜販売（11～12月）

## 農家に届いた 小学生からの手紙



～「生産者の方にお手紙を書こう」から～

こんにちは。僕たちはもう卒業します。一年生の時にくらべてすごく大きくなりました。そうなれたのは、おいしい給食のおかげです。ありがとうございます。これからも中学校でこのおいしい給食を食べられることがすごくうれしいです。中学校に行ってもおいしい給食をたくさん食べてもっと大きく成長して行きたいです。

武蔵野市立桜野小学校六年生より

## 学校給食の安全・安心、新鮮な「地産地消メニュー」日々の紹介



栄養士さんと畑で打ち合わせ



収穫



調理場へ搬入



給食風景



ラディッシュ調理中



ラディッシュが一杯

## イベントカレンダー (25年度下半期)

イベント名	時 期	場 所
農業写真展	10月28日(月)～11月8日(金)	市役所1階ロビー
	11月10日(日)	市役所北側広場
	11月11日(月)～2週間	J A 東京むさし武蔵野支店
農産物品評会 審査 展示と即売会	11月9日(土)	市役所北側広場
	11月10日(日)	
農家見学会と 農業フォト講習会	11月16日(土)	市内農家
フレッシュサラダ作戦	11月23日(土)	吉祥寺東急百貨店北側広場
	11月30日(土)	境南ふれあい広場公園
	12月2日(月)・9日(月)	市役所正面玄関脇テント
うど品評会	2月中旬	J A 東京むさし武蔵野支店

※10月現在の予定です。詳しくは市報・市HPでご確認ください。

# 「新鮮で安全・安心な野菜はすぐそばに」 生産者の笑顔



市内には農家が営む約 40 箇所の直売所があり、共同直売所として、JA 新鮮館があります。創刊号では、農業経営の大御所とこれから期待される若い生産者を訪ねました。

350 年前から代々農業を営み、当地では、主に麦・野菜を扱う農家でした。

政男さんは終戦後に家業を引き継ぎ、その間作物の収穫作業では、多いときにはキュウリの収穫が 2500 本/日や 40 樽ものたくあんの漬物も大人気でした。

政男さんは、80 歳過ぎた今も毎日元気に畑に出ています。



境南町四丁目在住  
吉野政男さん  
八重子さん

両親と一緒に営農している若い夫婦を訪ね、今後の抱負をうかがいました。櫻井敏史さんは、給食食材への提供、園児・児童の芋掘り体験、また野菜マルシェへの出品など若い感覚を活かし仲間と一緒に野菜のブランド化を研究中です。また、緑さんは、娘の離乳食にも安全・安心な野菜作りに協力しています。



関前四丁目在住  
櫻井敏史さん 緑さんご家族



うどの花

## 《夏の避暑地で育つうど》

9月上旬の晴れた日、武蔵野のうど生産者の方々とご一緒に群馬県の栽培農家に送った根株の生育を見学しました。茎や葉が大きく伸びた根元を掘ると、小さなうど芽が出ています。

11 月に入ると、根株を掘り上げ武蔵野市の生産者に届けていただき、発芽の時期・育ち具合を想定して室（むろ）に入れ約 35 日位で、太い真っ白なうどに育て上げます。

うど畑の隣には、コンニャク畑があり、その訳を聞くと、コンニャクを作ったあとの畑は、うどが良くできるとのこと。うどが市場に出るまでとても手間ひまがかかることがわかりました。

「うど花のつぼみは、天ぷらにするとおいしいよ！」と伺いお土産に摘んで帰り、おいしく頂きました。おひたしもいけますよ！ 是非一度おためしあれ！！



うど畑にて

## 編集後記

農業委員会だよりの創刊号が、関係各位および事務局のご協力と編集委員の皆さんのご努力により発刊できました。皆様に感謝申し上げます。これからも農業者と市民をつなぐ様々な話題や情報を提供できるよう努力してまいります。

編集委員／榎本 一宏・櫻井真二郎・田中 恒男・田辺あき子・土屋美恵子

農業委員会だよりの感想や今後取り上げてほしい記事などありましたら、農業委員会事務局 Tel.0422-60-1833 までお寄せください。